

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式・論述式 (250字～300字)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問5題は昨年度までと同じ。マーク式の設問が34問で変わらず。論述式の設問の制限字数は、今年度も250～300字で分量に変化なし。正誤判定問題の難易度は、総じて昨年度と変わらず。

出題の特徴

マーク式設問の過半を占める文章正誤判定問題は、昨年度の21問から2問増加し、今年度は23問であった。正誤の判断基準は、因果関係や年号・年代の誤りを判断させるものよりも、単なる用語の誤りが中心になる傾向が続き、用語のレベルも易しくなりつつある。その分、本腰を入れて論述問題の対策をしてほしいとの大学側の意図のあらわれだろうか。現代史からの出題が比較的少ないことが法学部の特徴であったが、昨年度、第二次世界大戦後からの出題が大幅に増加したのに引き続き、今年度も論述問題を含め現代史にかかわる問題が多く出題された。

その他トピックス

大問IIで、ウクライナにかかわる歴史がテーマとされた。2022年のロシアによるウクライナ侵攻を踏まえた時事的な出題と考えられる。ロシアや東欧に関する問題は、多くの受験生の苦手とするところだが、早慶レベル模試の大問IVでは、「キエフ(キーウ)をめぐる歴史」をテーマとして、ウクライナ関連の歴史を出題したので、同模試受験者はまったく戸惑わなかったと思われる。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式	中国の対外政策の歴史(宋～現代)	設問1. ③アメリカ大陸原産の作物が、大航海時代より前の宋朝で栽培されることはないので、誤文であるのは明白だが、明清交替期の17世紀中頃から「トウモロコシが華北で、サツマイモが江南で栽培」されることを覚えておこう。設問3. ①「サンスクリット文学」ではなく「タミル文学」。設問7. ①「鎖国」と呼ばれるようになったのは、19世紀初め。設問8. Aが南北戦争中の1863年、Bが南北戦争後の1869年であることは基本。大陸横断鉄道の建設に多数の中国系移民が従事したことを想起すれば、Cが1882年とわからなくても、Bの後なのは自明。	やや易
II	マーク式	ロシア・ウクライナの歴史(9世紀～現代)	設問1. ウ. 西スラヴ人は、カトリックを受容。設問5. イ. オーストリアがフランス革命への対応に追われて第二次分割に参加しなかったことは、私大入試の定番。設問8. ウ. ソ連は、第二次世界大戦が勃発すると、ポーランドに侵攻し、独ソ不可侵条約の秘密条項に従ってポーランド東半部を占領した。当時、ガリツィアがポーランドの支配下にあったことは、下線部(8)の直前に示されている。	標準
III	マーク式	イスラーム世界の歴史(7～11世紀)	設問8. 2. アブド=アッラフマーン3世は、やや細かいが、早大受験者なら必須。ファーティマ朝がカリフを称したのに対抗して、自らもカリフを称した。	やや易

IV	マーク式	ラテンアメリカの歴史(古代～現代)	<p>設問1. イ. 「航海王子エンリケ」ではなく「ジョアン2世」。設問2. ロ. 「諸都市の統一がなされないまま存続し、スペイン人の侵略を受けた」の部分は、マヤ文明の説明。テオティワカン文明は、スペイン人到来前に衰亡している。設問3. ニ. 絶対王政の常備軍は、傭兵が主体。設問4. ロ. 北米のタバコ＝プランテーションはヴァージニアを中心に始まった。また、労働力として後には黒人奴隷が使用された。ハ. スペインは、奴隷供給地となるアフリカに植民地を持たなかったため、外国の政府や商人と奴隷供給契約(アシエント)を結んだことを想起する。設問5. イ. 茶法は、植民地で販売される「茶に重税を課す」のではなく「茶を免税とする」。ロ. 独立戦争勃発後まもなく第2回大陸会議でジョージ＝ワシントンが植民地軍の総司令官に任命され、翌1776年に独立宣言が発表された。「第1回」の大陸会議は、独立戦争前に開かれている。設問8. ニ. 米州機構の設立(1948)は、キューバ危機(1962)より前。</p>	やや易
V	論述式	アパルトヘイト廃止に至るまでの南アフリカの歴史的経緯(17世紀半ば～1990年代初頭)	<p>1990年代初頭の南アフリカの「大きな社会変革」がアパルトヘイト(人種隔離政策)の撤廃であると見当をつけたうえで、そこに論点が着地するように「17世紀半ば以降の歴史的経緯」を説明していくことがポイントである。指定語句も特に使い難いものではなく、むしろ指定語句が手掛かりになって書くべき事柄が容易に思い浮かぶはずだ。ただし、問題文をきちんと読めば、あくまで「大きな社会変革」についてが主題であることは明らかだ。指定語句を消化して単に南アフリカの歴史を述べるのではなく、様々な人々の支配を受ける中で人種政策が形成されていったことを軸に据えた論述が求められている。なお、1994年に全人種が対等に参加した選挙で黒人のマンデラが大統領に選ばれたことも「大きな社会変革」だが、1990年代「初頭」という時代設定を考えれば、言及の必要はないだろう。</p>	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

時代・分野では、前近代史からの出題が中心だが、今年度のように現代史から多く出題される年もあるので、早大を志望する以上、全時代・全分野の網羅的学習は必須である。マーク式問題は、選択肢が一見難解に見えるものの、実は基本的な事項で誤りを判断できるパターンがほとんどである。細かい事項ばかりに注意を向けるのではなく、基本事項の確実な習得が重要であることを意識しておこう。また、今年度の論述式問題は250～300字と昨年度を踏襲しており、近年、制限字数300字が定着している。論述はボリュームがあるため、論述力を伸ばすうえで添削指導を受けることが望ましい。